



令和7年度厚木高校 SSH 成果発表会に参加しました！

令和8年3月12日(木)神奈川県立厚木高校にて行われた、令和7年度厚木高校 SSH 成果発表会に JAMSTEC 所属の 80 期の 1 グループが参加しました！
発表メンバー、研究タイトル、アブストラクトは以下のとおりです。

【発表メンバー】

80 期 3 組 藤田まやさん、4 組 川村 麻七さん、羽島 ななこさん

【研究タイトル】

深度による深海魚の眼のサイズの変化について

【アブストラクト】

深海環境に生息する深海魚の眼の大きさが生息深度によってどのように変化するかを明らかにすることを目的とし、姫目を対象に研究を行った。本研究では、深度と眼の大きさには正の相関関係が見られると仮説を立てた。図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略を目指す。

深度による深海魚の眼のサイズの変化について
I-406 B
神奈川県立横須賀高等学校 藤田まや・川村麻七・羽島ななこ

本研究では、深海環境に生息する深海魚の眼の大きさが生息深度によってどのように変化するかを明らかにすることを目的とし、姫目を対象に研究を行った。本研究では、深度と眼の大きさには正の相関関係が見られると仮説を立てた。図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

目的
深海環境に生息する深海魚の眼の大きさが生息深度によってどのように変化するかを明らかにすることを目的とし、姫目を対象に研究を行った。本研究では、深度と眼の大きさには正の相関関係が見られると仮説を立てた。図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

方法
図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

結果
図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

結論
図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

謝辞
図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

参考文献
図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

発表者
図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

発表場所
図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

発表日時
図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

発表者連絡先
図鑑から体調、黒目の直径を用いて散布図を作成することで、相関関係を分析した。次年度では対象種を拡大し、深海魚の光受容構造を通して生存戦略の探求を目指す。

Q：発表に向けて準備したこと

調査に使用したデータベースの参照方法や詳細情報、分析に用いたデータの信頼性などについて質問された際に正確に答えられるよう、想定される質問への回答を事前に準備しました。

Q：発表した感想

普段とは異なる環境で発表したことで、自分達の研究の伝え方や説明の仕方について改めて考える良い機会となり、ポスターの構成や説明の工夫についても学ぶことが多く今後の研究活動に生かしていきたいと感じました。

80 期 3 組 藤田 まや

Q：研究のきっかけ

もともと深海に関することに興味があり、テーマ決めの時に目に関することをやると決めました。その後深いところにいる魚は目が大きいということを知り、深度による目の大きさの変化を研究することになりました。

Q：後輩へ一言

成果発表会に参加してみて、私はどんなことでも学びはあると感じました。発表では理系だけでなく文系にも通ずるような研究を行っている人もいました。ですから、このような機会があればぜひ挑戦してみてください。

80 期 4 組 川村 麻七

Q：会場の様子

横須賀高校の生徒と似ていて興味関心が強く、質問も積極的に行っていて様々なブースに人が集まっていた。全体発表では質疑応答で感嘆の声が聞こえるなど一人一人が自ら考えることができていて関心し、見習おうと感じた。

Q：他校の発表を聞いて

先行研究を中心に研究を進めていて、情報の信憑性や実験の意味、意義を必ず示し、説得力があった。特に興味したのは質疑応答で、質問内容がその研究の核をつくもので互いに研究を深められているのだと思いました。

80 期 4 組 羽島 ななこ



実際に使用したポスターは CD 棟間 2 階渡り廊下(西)に掲示しています。ぜひご覧ください！